

「心豊かに、生きる力をはぐくむ教育の研究」

～ともに学び合う集団の育成～

I 研究の内容

本校では、過去の指定研究である「国語力の向上に関する研究の推進」と「家庭・地域と連携した道徳的実践活動」をベースに、より良いものを求める心、より文化的で価値のあるものを求めようとする心、また日常生活の積み重ねを大切にする心の育成を図り、教育活動全般にわたりそれらをより強固なものにしてきた。

これらの研究の成果をもとに、本校の大きな課題である「個々の生徒の学力向上」のため、「個」の伸長を意図した上で「集団」のレベルアップを図っていくことに重点を置き、数年来研究が重ねられてきた。「クラスにいると楽しい」、「自分はクラスメートから認められている」という意識は、何より学習に対する前向きな気持ちにつながる。また、学級や学年など、共に学ぶ仲間との関係を大切にし、学び合い、伸びあうことができる「学びの共同体」を大切にした授業や諸活動の充実が今以上に大切であると考えてきた。

学校は学ぶところであるという全教職員の共通意識のもと、学習習慣や生活習慣の確立や学びに向かう上での基盤を身につけさせること、「あいさつをする」、「『はい』という返事」、「人の話をしっかり聞く」、「時間を守る」などは集団活動を展開するうえで欠かせないことである。本校では、そういった基盤に対して、教職員の意識の一致した指導がなされているが、今年度もその継続とさらなる工夫を図った。

- 1 意欲的に学ぶ集団づくり
- 2 各教科における現状の把握とそれに伴う指導方法の改善
- 3 学びの主体となる生徒の「質的」向上

以上の視点に基づき、本主題を設定し研究を進めてきた。

II 研究の具体的内容と方法

- 1 意欲的に学ぶ集団づくりに関わって
 - (1) 学びの場としての基本となる授業規律のいっそうの確立
 - (2) Q-Uの実施と分析・活用の充実
 - (3) 学びの集会を生徒会と連携して実施
- 2 各教科における現状の把握とそれに伴う指導方法の改善に関わって
 - (1) 各種検査、試験の活用による生徒の実態把握と指導方法の改善
 - (2) 実技教科における指導目標の明確化
 - (3) 評価方法の検討
- 3 学びの主体となる生徒の「質的」向上に関わって
 - (1) 学力向上への取り組み（家庭学習の習慣化とステップアップノートの活用）
 - (2) 道徳教育の充実による生徒の情操の育成

(3) 国語力向上の取り組みの継続

4 研究授業の実施

研究の検証の場として研究授業を4回実施した。

- 1 学期 古屋成美教諭 (3年1組 国語)
- 2 学期 古屋秀輝教諭 (2年4組 道徳)
- 3 学期 日野原裕子教諭 (1年2組 学活)
- 飯島春奈教諭 (1年1・2組 体育)

III 成果と課題

1 意欲的に学ぶ集団づくりに関わって

○成果

- ・塩中生の4つの規範を生徒がよく認識し、実施できている。学習のベースとなる部分であり、学びの環境をつくるために、とても大切なことなので今後もよりレベルの高いものを目指していきたい。
- ・Q-Uの分析を各学年毎に分かれて行ったので、クラスの分析を丁寧にすることができ、その後の指導に生かした。

○課題

- ・まずは集団を鍛え、集団の力で全員を高め、最終的には一人になっても同じように行動できる生徒を育てたい。現段階ではそこに課題も残る。
- ・Q-Uで改善が見られた生徒などについての指導の工夫などをもう少しよく交流したい。

2 各教科における現状の把握とそれに伴う指導方法の改善に関わって

○成果

- ・全職員が授業を実施し、参観し合うことで、他教科ではあったが参考になる部分が多かった。授業を参観してもらうことで、自分の気付かない部分(改善点)を発見できたり、良さを認めてもらうことで自信にもつながった。

○課題

- ・指導法の改善のためには、「何のために、何を、どのように」するのかを明確にした上で共有されることが必要だと思う。

3 学びの主体となる生徒の「質的」向上に関わって

○成果

- ・ステップアップテストは基本の徹底とやればできるという自信をもたせるためにも有効な取り組みである。

○課題

- ・ステップアップテストでは、何を、どこを目標とするかを確認する必要がある。
- ・自律した学習者を育成するために自主学習について研究したい。

(研究主任 桐原誠之)